

水稻の生育状況と今後の管理対策（第3号）

平成29年6月21日
新潟県農林水産部

〔要約〕

6月20日現在の水稻の生育状況

- ◎ 県全体では、指標値（生育のめやす）に比べて葉数の進み及び茎数は、コシヒカリ、こしいぶきともにいずれも「並み」の状況となっています。
- ◎ ただし、田植えの時期や標高によっては生育が遅れているほ場も散見されます。

今後の管理対策

- ◎ 5月下旬の田植えほ場では、根の健全化を図るため、田植え後30日をめやすに茎数を確認し、やや早めであっても中干し^{*1}を開始してください。
- ◎ なお、山間高冷地域の茎数の少ないほ場では、浅水管理で分げつの発生を促しましょう。

*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

〔6月20日現在の生育〕

- コシヒカリは、県平均では指標値（理想的な生育めやす）に比べ、草丈は「短い」、茎数は「並み」、葉数の進みは「並み」、葉色は「やや淡い」状況です。
- こしいぶきは、県平均では指標値に比べ、草丈は「短い」、茎数は「並み」、葉数の進みは「並み」、葉色は「並み」の状況です。

〔今後の生育見込み〕

- 6月15日発表の1か月予報（6月17日から7月16日までの天候見通し）によると、平均気温は、平年並の確立が40%、降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
- 今後、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みですが、中干し・溝切りが徹底されないと、倒伏や根の活力低下につながるものが心配されます。

〔当面の管理対策〕

- 5月下旬の田植えほ場では、根の健全化を図るため、田植え後30日をめやすに茎数を確認し、やや早めであっても中干しを開始してください。
早めに中干しをした場合は、中干しの強さ（日数）で生育調節しましょう。
- 中干しの強さは、田面に小ひびが入り、軽く足跡がつく程度とし、連休植え等の生育量が多いほ場では、田面に小ひびが入る程度よりやや強めに中干しを実施しましょう。
- 中干しは遅くとも出穂の1か月前をめどに終了し、終了後は発根促進や根の健全化を図るため、浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行しましょう。
- なお、山間高冷地域の茎数の少ないほ場では、浅水管理で分げつの発生を促しましょう。
- 極早生・早生品種は、早めに幼穂を確認し、穂肥の施用が遅れないよう注意しましょう。
- 農作業時の熱中症事故を防止するため、施肥や草刈り等の作業は、日中の気温の高い時間帯を外して行うとともに、水分をこまめに補給するようにしましょう。

◎ 今後の管理対策発行予定日

6月30日、7月11日・21日・26日、8月1日・22日、9月12日

〔補足資料〕

1 コシヒカリおよびこしいぶきの生育状況

1 頁の「水稻生育状況と今後の管理対策」の生育状況は、下記の生育調査結果及び他の調査結果を含めた生育状況です。

(1) 農業普及指導センターの「生育調査ほ」の結果は以下のとおりです。

- コシヒカリの草丈は指標値（生育めやす）より短く、茎数は並み。葉色は並みで、葉数の進みは並み～やや遅い（表 1、表 2、図 1～4）。
- こしいぶきは指標値に比べ、草丈は短く、茎数は並み。葉色や葉数の進みも並み（表 3）。

表 1 コシヒカリの気象感応ほ調査結果

項目	6/20 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
草丈	32 cm	37 cm	86%	・ 平年比 84%、H28 年比 76% ・ 指標値より短い。
茎数	380 本/m ²	375 本/m ²	101%	・ 平年比 100%、H28 年比 85% ・ 指標値並み。
葉数	8.3 葉	8.4 葉	-0.1 葉	・ 平年差 -0.3、H28 年差 -0.8 ・ 指標値並み。
葉色 (SPAD 値)	38.1	38.7	- 0.6	・ 平年差-0.6、H28 年差 -1.7 ・ 指標値並み。

注 1：県内 15 か所の平均、田植え 5/11、栽植密度 57 株/坪

表 2 品質安定化対策実証ほ調査結果（コシヒカリ）

項目	6/20 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
草丈	31 cm	38 cm	82%	・ 指標値より短い。
茎数	380 本/m ²	377 本/m ²	101%	・ 指標値並み。
葉数	8.1 葉	8.5 葉	-0.4 葉	・ 指標値よりやや少ない。
葉色 (SPAD 値)	38.3	38.9	- 0.6	・ 指標値並み。

注 1：県内 14 か所の平均、田植え 5/12、栽植密度 58 株/坪

注 2：一部地域では、調査ほ設置場所の違いから、品質安定化対策実証ほの指標値が気象感応ほの指標値と異なる場合がある。

表3 こしいぶきの生育調査ほ調査結果

項目	6/20 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
草丈	30 cm	36 cm	83%	・ 平年比 81%、H28 年比 70% ・ 指標値より短い。
茎数	393 本/m ²	407 本/m ²	97%	・ 平年比 90%、H28 年比 76% ・ 指標値並み。
葉数	8.5 葉	8.8 葉	-0.3 葉	・ 平年差-0.5、H28 年差-1.1 ・ 指標値並み。
葉色 (SPAD 値)	39.7	40.5	- 0.8	・ 平年差-2.2、H28 年差-3.1 ・ 指標値並み。

注1：県内 14 か所に設置した生育調査ほの平均、田植日 5/9、栽植密度 60 株/坪

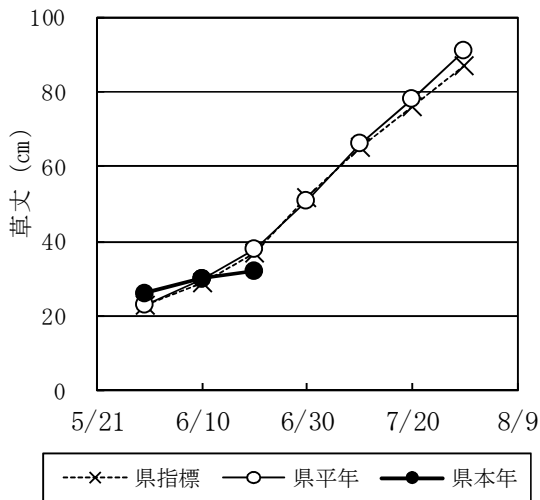


図1 気象感応ほコシヒカリの草丈推移 (県平均値)

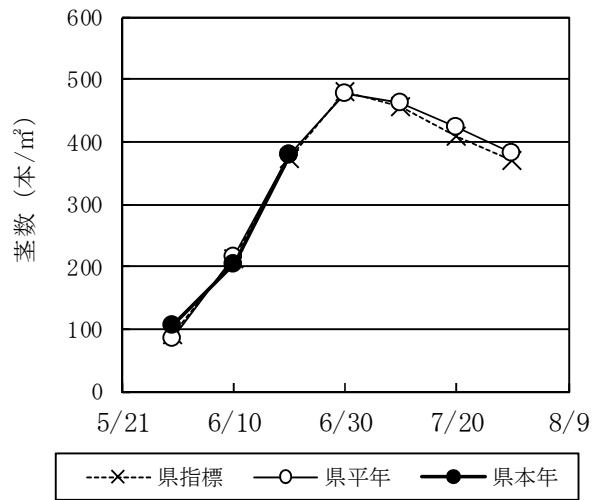


図2 気象感応ほコシヒカリの茎数推移 (県平均値)

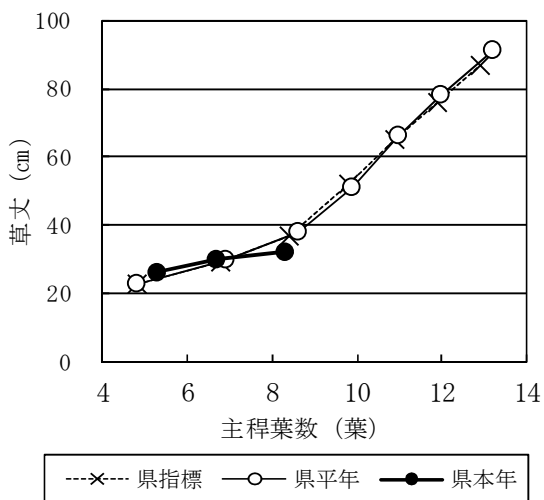


図3 気象感応ほコシヒカリの葉数と草丈 (県平均値)

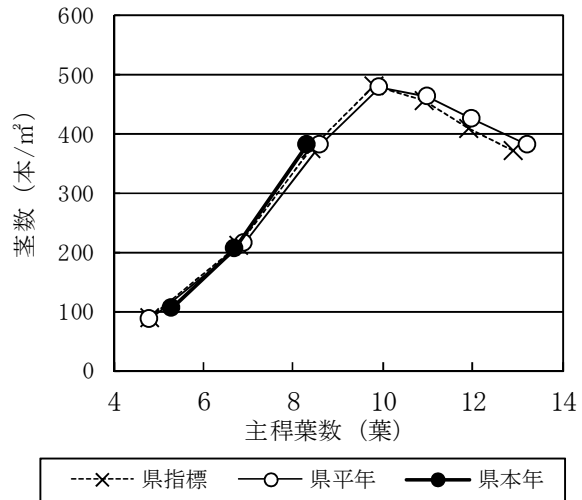


図4 気象感応ほコシヒカリの葉数と茎数 (県平均値)

(2) 作物研究センター調査ほ

- 6月20日調査のコシヒカリの生育は平年及び前年に比べて、草丈は短く、茎数は少なく、葉数の進みは遅い。葉色も平年及び前年より薄い。
- こしいぶきの生育は平年及び前年に比べて、草丈は短く、茎数は平年よりやや少なく、前年より少ない。葉数の進みは平年よりやや遅く、前年より遅い。葉色は平年よりやや薄く、前年より薄くなっている。

表4 コシヒカリの生育(調査日:6月20日)

	本年値	前年比・差	平年比・差
草丈	32cm	70%	81%
茎数	407本/株	80%	86%
葉数	8.2	-1.0	-0.8
葉色	37.0	-3.2	-2.7

注)有機入り肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は18.2株/m²。

平年値は平24~28は有機入り肥料栽培、平19~23は化成肥料栽培によるデータ。

表5 こしいぶきの生育(調査日:6月20日)

	本年値	前年比・差	平年比・差
草丈	27cm	66%	77%
茎数	470本/株	84%	95%
葉数	8.3	-1.2	-0.7
葉色	38.9	-2.8	-1.9

注)化成肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は19.6株/m²

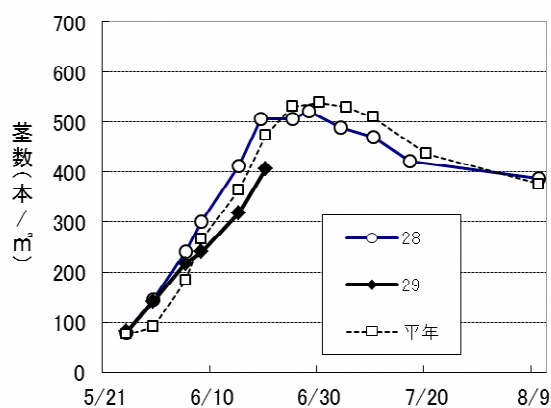


図5 コシヒカリ茎数の推移

(28:平28、29:平29、平年:平年値)

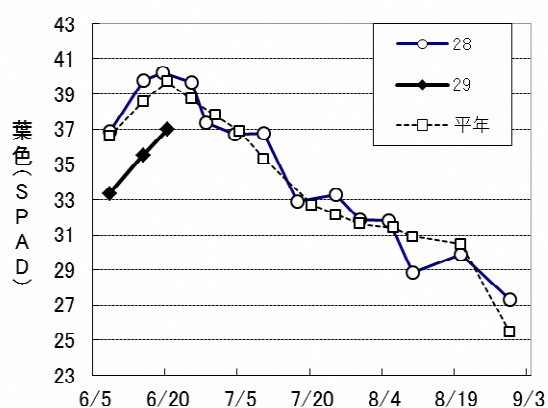


図6 コシヒカリ葉色の推移

2 ちりよく 地力窒素の発現状況

○ 6月9日以降の日平均地温は平年差-3.3℃とかなり低く、移植からの平均地温も平年差-0.4℃となった。期間窒素発現は化学肥料区、堆肥区ともに平年より少ない(表6)。

表6 地力窒素の発現状況(農総研基盤研究部調査) (mgN/100g)

調査日		5月10日 (初期値)	6月8日①	6月19日②	地力窒素発現量 ^{※1} (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.1	4.8	4.9	0.1
	前年	1.8	3.3	3.6	0.3
	平年	2.3	3.3	3.7	0.5
堆肥施用区	本年	3.5	5.6	5.9	0.3
	前年	2.3	4.0	5.1	1.1
	平年	2.6	4.0	4.6	0.6

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

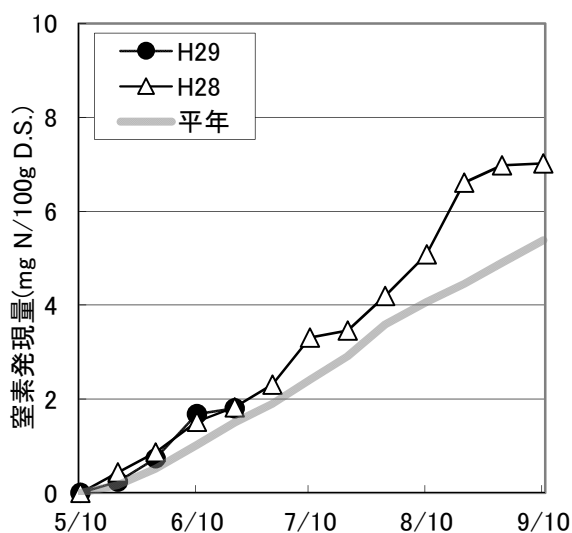


図7 地力窒素の発現推移
(化肥区; 初期値を0とした)

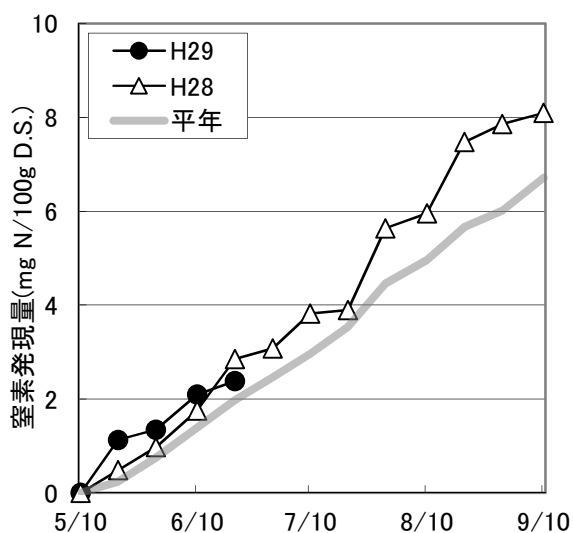


図8 地力窒素の発現推移
(堆肥区; 初期値を0とした)

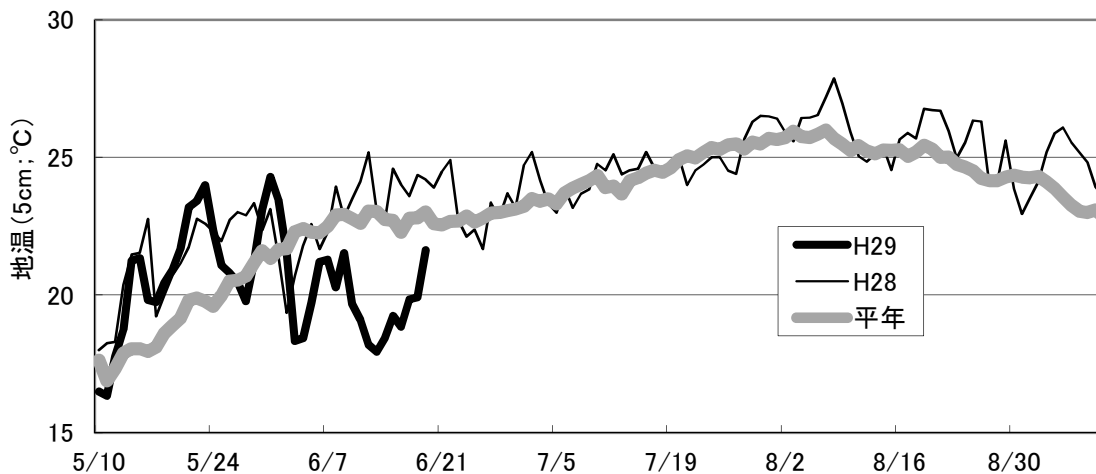


図9 地温(5cm)の推移